



監督・脚本＝原田真人／原作＝京極夏彦『魍魎の匣』（講談社刊）／出演＝堤真一／阿部寛／椎名桔平／宮迫博之／田中麗奈／黒木瞳／マギー／堀部圭亮／荒川良々／笹野高史／大森博史／大沢樹生／右近健一／寺島咲／谷村美月／清水美砂／篠原涼子／宮藤官九郎／柄本明（ショウゲート配給／2007年日本映画／133分）

……「映像化不可能」と言われていた京極ワールドの最高傑作が登場！<sup>ち</sup>魍魎<sup>みもうりょう</sup>な物語が複雑怪奇に進んでいくうえ、難解な言葉のオンパレードだから、観客は論点の整理と集中力が必要……。他方、この映画の特徴である上海口ケを中心とした異国情緒にも注目！ 後半からクライマックスに至る<sup>はこ</sup>匣館<sup>やかた</sup>の攻防戦では、不思議な世界にたどり着くこと必至。冴えわたる京極堂の推理を追いながら楽しみたいものだが……。

## 🎬 「映像化不可能」が、2度までも……？

全9冊で合計500万部を超える大ベストセラーになっているのが、京極夏彦の『京極堂（百鬼夜行）シリーズ』。これは、昭和20年代を主な舞台として、主人公の京極堂（中禅寺秋彦）が妖怪にまつわる奇怪な事件を「落とす」長編小説シリーズ。ちなみに、そのタイトルの漢字だけでも全然読めないような難しい妖怪の世界を、膨大な知識の裏付けの上に緻密に構築した独自の世界は、「京極ワールド」と言われる誰もマネのできない世界……？

したがってその小説の映像化は不可能といわれていたが、1994年に発表された第1作『姑獲鳥の夏』<sup>うぶめなつ</sup>が映像化されたのが2005年。この映画についての私の評価は「こんな自己満足的な映画のつくり方では、『横溝正史シリーズ』や『金田一耕助シリーズ』を上回るような『京極堂シリーズ』はムリ。この第1弾で打ち切りとなるのでは……？」とかなり低かった（『シネマルーム9』393頁参照）。ところが現実はこちらに続いて、シリーズ最高傑作との呼び声の高い第2作『魍魎の匣』<sup>もうりょう はこ</sup>が原田真人の監

督・脚本によって映像化されることに。

このように次々と映像化されているのをみると、「映像化不可能」という言葉の信憑性が薄れてしまうが、なるほど「京極ワールド」の映画化は難しいと感じさせられたことはたしか。なぜ『百鬼夜行シリーズ』が「映像化不可能」と言われてきたのか、そんな疑問に迫っていくことが、この映画を理解するための第一歩……。

### 魍魎 VS. 魍魅魍魎

京極ワールドの最高傑作といわれる『魍魎の匣』<sup>もうりょう はこ</sup>では、『姑獲鳥の夏』<sup>うぶめ なつ</sup>以上に京極氏の博識ぶりが披露されるシーンが登場する。もっとも、それらはいずれもきわめて難解なもの……？

その典型的なものが、私たちが日常用語としても時々使っている「魍魅魍魎」<sup>ち み もうりょう</sup>という言葉。そして、魍魎と魍魅魍魎の違いについての京極氏の講釈を聞くと、これは中国の荘子の言葉に由来するものらしい。プレスシートにはそれが詳しく書かれているし、ネット情報を調べればある程度わかるはずだから、ホントに興味をもつ方は是非調べてもらいたいもの。

また、『日本書紀』や『絵図百鬼夜行』にも、魍魎についての解説があるらしい。正確なことはよくわからないが、魍魎とは「境界で人を惑わす妖怪」のこと。どちらにしても、魍魅魍魎も魍魎も何となく怪しげでまともではない世界であることはたしかだから、一般人はそんな世界に立ち入らないのが何より、と私は思うのだが……？

### 考えてみれば、すごい俳優陣

観ている時はやけに複雑でやけに長い映画だと思っていただけだが、よく考えてみると、この映画のキャストはすごい俳優陣。

男優だけみても、①引退した元女優柚木陽子（黒木瞳）の娘の行方を追う探偵榎木津礼二郎を演ずる阿部寛、②不幸をハコに封じ込める教団の謎に迫る作家関口巽を演ずる椎名桔平、③巨大なハコ型建物の謎を追う刑事木場修太郎を演ずる宮迫博之、④榎木津と関口が応援を求めにやってくる古書「京極堂」の店主中禅寺秋彦を演ずる堤真一、というオールキャスト。

他方女優陣をみても、①人気絶頂で引退した伝説の女優柚木陽子を演ずる黒木瞳、②雑誌『稀譚月報』の優秀な記者で、中禅寺の妹、敦子を演ずる田中麗奈、③中禅寺

の妻千鶴子を演ずる清水美砂、④関口の妻雪絵を演ずる篠原涼子、らのオールキャスト。

そのうえ、戦後間もない東京で起きている美少女連続殺人事件の被害にあったのではないかと心配させる14歳の女の子柚木加菜子役の寺島咲と、この加菜子を恋い慕う同級生の楠本頼子役で谷村美月という2人の若手美女も登場するから、これにもご注目！

## 壮大な物語のプロローグは戦場シーンから

何の予備知識もないままこの映画を観ると、最初に戦場のシーンが登場するから、「あれ、この映画は戦争映画だったのか」とビックリする人がいるかも……？ しかし、その心配はご無用。それはあくまでこの映画のプロローグだけだから。

海軍中尉の榎木津礼二郎は、敵の爆撃の中平然と対応していたが、そこで一人の兵士を助けることに。彼は「久保中尉」（宮藤官九郎）の名札をつけていたが、年齢からしてそれはありえず、多分二等兵……？ 彼の言葉によると、「捕虜になった時の待遇が違うから、死体から盗んだ『久保中尉』の名札を付けている」とのことだが、あの当時ホントにそんなことを思いつく二等兵がいたの……？

もっとも、このプロローグはそれを言いたいのではなく、その次の照明弾の爆発シーンで榎木津が左目をやられるシーンを導き出すためのものにすぎなかったことが後でわかるから、二等兵役の宮藤官九郎はこれだけのチョイ役……？ いや、宮藤官九郎ほどの俳優に多分それはないはず……？

それはともかく、敵の攻撃を避けてやっと逃げ込んだ洞窟の中で目を覆っていた布をとると、何と榎木津の左目は久保の過去の姿が見えてくる目になっていたからビックリ……。しかもそれは、「ハコ」にまつわるおぞましい記憶だったから、二重にビックリ。

ここまでのプロローグだけで、この映画の魑魅魍魎ぶりが明確に……。

## 一体どんな物語 その1——問題の発端は……？

前述のように、この映画は「映像化不可能」と言われた京極夏彦の世界を男優、女優ともオールキャストで描いた作品だから、物語は複雑で難解。しかもセリフ自体に難しい言葉が多いから、よほどそれに注意していなければ、一体何の話をしているの

かチンプンカンプンになる可能性も……。もちろん私はここで詳しくそのストーリー紹介をするつもりはないが、この映画は一体どんな物語なのか、そのポイントを理解してもらうため、人物関係図を中心として少し整理しておきたい。

第1に、問題の発端は、柚木陽子と柴田財閥の故弘哉との間に生まれた一人娘加菜子が失踪したこと。詳しいことは省略するが、陽子と弘哉との結婚は認められず、弘哉は別の女性と結婚させられたのだが、弘哉もその妻も死亡してしまったため、柴田財閥の相続人は加菜子1人に。そこで、柴田財閥の遺産相続をめぐる、加菜子の後見人の座を狙う柴田財閥の顧問弁護士増岡則之（大沢樹生）が登場し、また陽子の監視役として増岡は雨宮（右近健一）を派遣したとのこと。そんな状況下で陽子が失踪したのは、増岡が先手を打って加菜子の身柄を確保したため。陽子はそう主張して、探偵榎木津を訪れたのだが……？

### 一体どんな物語 その2 —— 「穢れ封じ御筥様」とは？

世の中にはいつの時代でも新興宗教が存在するが、それはいつの時代でも人々の不安や不満が存在しており、それを既存宗教では救済できないため。今でこそ定着しているものの、南無妙法蓮華経を唱える日蓮宗や、南無阿弥陀仏を唱える浄土宗などもその時代の新興宗教だ。そこで問題は、何でも同じだが、新興宗教にもホンモノとニセモノがあるということ。しかして、この映画で最近多くの信者を集めている新興宗教「深秘御筥教<sup>じんぴおんぼこきょう</sup>」、通称「穢れ封じ御筥様<sup>けが</sup>」とは……？

これは、悩みを持つ人々に財産を寄進させ、それを神聖な御筥に収めて穢れを浄めるという手法で多くの信者を集めていたが、さて、これはホンモノ……？ 何でも、「穢れ封じ御筥様」の信者10人が最近失踪しており、バラバラ殺人事件の有力被害者候補2名もそれに含まれているらしい。そんな情報を得た関口と敦子は、教主寺田兵衛（大森博史）との面会に成功したが……。

### 一体どんな物語 その3 —— 「匣館」とは……？

おっと、もう1人重要な男優を忘れていた。それは、どんな映画でも渋い演技で圧倒的な存在感を示す柄本明だ。彼が演ずる美馬坂幸四郎は、「匣館<sup>はこやかた</sup>」と称される「美馬坂近代医学研究所」の所長で、免疫学と遺伝子研究の権威。そして、彼こそがこの映画の魑魅魍魎ぶりを最も徹底させてくれる人物で、クライマックスに向けて大きな

役割を果たしていくことになるから、要注意！

後半の多くの時間がこの「匣館」の内部のシーンに使われるが、プレスシートを読むとこれは日活撮影所に設けられたセットの中で撮影されたとのこと。もっとも、山の上に建つ巨大な「匣館」の外観はCGを使ったものらしい。

今、多くの作業員たちが逃げ出している、この「匣館」の内部に入っていくのは、①京極堂、②関口、③榎木津、④敦子、そして⑤青木刑事（堀部圭亮）の5人。その後、陽子への想いを抑えきれない謹慎中の木場刑事も建物の中へ。そんな中、予想を大きく超えるクライマックスが……。

そこに至るまでの複雑で長い物語は、あなた自身で味わってもらわなければならないが、とにかくこの「匣館」の成り立ちと、その中で美馬坂を中心とする営みが、この映画最大のポイント……。

### 一体どんな物語 その4 —— 加菜子と頼子の関係は……？

女優相武紗季の存在を強く印象づけた映画が『ビートキッズ』（04年）だった。その中で彼女は女のクセ（？）に、「ボクは……」という言葉遣いをしていたが、この映画で加菜子が頼子に対して話しかける言葉もそれ。しかも頼子の手首に「縁の紐」を結びながら、「君はぼくの、ぼくは君の生まれ変わりなんだ」と話しかけていたから、頼子は日頃から加菜子に抱いていた憧れの念をますます強くする一方。

思春期の少女同士のこんな感情はちょっとヤバイのでは、と思っていると案の定……？ 以降、この2人も被害者的な立場から、この映画の魑魅魍魎的な物語の展開に大きく寄与するから、それにもご注目を……。

### 一体どんな物語 その5 —— 木場と青木は……？

謹慎処分がとけたばかりの木場刑事は、今名画座の中。彼が食い入るように観ているのは、一人娘加菜子が「美少女バラバラ殺人事件」に関わっているのではないかと心配している陽子が、女優として登場している映画だ。木場の謹慎処分中、木場に代わって奔走していたのが、後輩の青木刑事だが、彼はある日、武蔵小杉駅で急停車した電車の中から頼子の姿を目撃したが、その駅のホームから落ちたのは加菜子だった。さて、これは偶然の事故……？ それとも……？ 失跡していた加菜子が発見されたのは良かったが、この時加菜子は瀕死の重傷を。病院に駆けつけてきた陽子は、なぜ

か加菜子を美馬坂教授の研究所に転院させることに。それは一体ナゼ……？ コトがここまで進んでくると、それまで青木刑事から協力を求められても興味を示さなかった木場刑事も、そういうわけにはいなくなつたようで、遂にこの刑事コンビも匣館に向かうことに……。彼らの捜査によって一体どんな手がかりを発見することができるのか、そしてそれが事件の真相解明にどこまで寄与することになるのだろうか……？

### 一体どんな物語 その6——京極堂の存在感は圧倒的……？

京極堂の博識ぶりはちょっと嫌味なくらいだが、前作に続いてこの『魍魎の匣』でもその博識ぶりがいかに発揮されるから、当然それに注目！ まずビックリするのは、関口、敦子らと共に御筥様の教団本部に乗り込んでいった時の、寺田教主との弁舌さわやかな論戦。これだけコテンパンに論破する京極堂の弁論術に多くの観客は恐れいるはず。国会の論争でも、たまにはこんな論戦をみたいものだが……。

次にビックリするのは、ストーリーが大詰めに向かっていく中、京極堂と美馬坂が当時陸軍の施設だった匣館で軍の命じる研究に従事していたということ。京極堂は異教徒を神道に改宗させるための洗脳実験を、そして免疫畑出身の美馬坂は人体のパーツを交換可能な人造物にする研究をしていたというから、ここにも魍魎魍魎ぶりが……。

### これでポイントの整理は十分……？

これだけ登場人物とテーマに沿って、物語のポイントを整理すれば十分だろう。あとは、あなたの目でしっかりとスクリーンを追い、そこで語られるセリフにもしっかりと耳を傾けてもらいたい。プレスシートによれば、この映画の総カット数は過去最高の2300になっているらしい。私は技術的なことはよくわからないが、カット数がそれだけ多いということは、物語がそれだけたくさん詰まっているということ。そりゃ、これだけのオールキャストが複雑に絡まった人間関係の中で、ストーリーが次々と展開していくのだから、カット数が多くなるのも当然。私が整理したポイントを参考にして、十分学習しながら楽しんでもらいたいものだ。

## 異例の20,000字インタビューから何を……？

この映画のプレスシートが異例のボリュームなら、その中にある原田真人監督の10頁に及ぶ「20,000字インタビュー」も異例。その中で、原田監督はあらゆる視点からこの作品に寄せる思いを熱く語っているが、注目すべきは彼の監督16作目にあたるこの『魍魎の匣』が、「グループエフォート（集団作業）としてのマイ・ベスト」と語っていること。

これは、特に上海を中心としたロケや中国人スタッフやエキストラとの共同作業を念頭においているものだが、「日本と中国、二つの国をこういう形で使ったというのは、これからの映画製作の一つの方向性になる」と論じ、「これからもこういう形で、中国の映画人と一緒に映画作りをしていきたいね」と語っているところに注目！

私は、原田監督については、『金融腐食列島 呪縛』（99年）、『突入せよ！「あさま山荘」事件』（02年）のような、社会性のあるテーマを取りあげた作品を高く評価している。そういう視点で考えてみれば、現在中国は環境問題、党や政府の幹部の腐敗、貧富の格差などさまざまな社会問題を抱えているうえ、靖国問題をはじめとする日中間固有の難問もたくさんある。したがって、中国の映画人との共同作業をするにあたっては、『魍魎の匣』のような娯楽作品だけではなく、社会性のあるテーマにも是非情熱をもって取り組んでもらいたいものだが……。

2007(平成19)年10月29日記